

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

千葉県八千代市立睦小学校

掛川 良治

1 単元名 SDGsプロジェクト ～みんなで考えよう 世界のこと～

2 単元について

(1)単元の目標

睦小学校の総合的な学習の時間の目標「探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにする。」に基づき、単元の目標を「SDGs17の目標について調べたり、目標達成に向け何ができるか考えて活動したりすることを通して、皆の力を集めると大きな力となって未来を創ることを理解し、持続可能な発展や自分たちの取組の大切さについて考えとともに、未来のためにできることを探し、自ら実践していくことができるようにする。」と設定した。

(2)単元についての考え

子供たちは、前年度までの総合的な学習の時間において、3年生では、「やさいはかせになろう」で地域の農家の方から野菜作りについて学び、自分たちで野菜作りを行いながら野菜作りの秘密に迫った。4年生では、「人にやさしい町づくり」で地域の調べ学習を通して地域のよさを学んだ。5年生では、水稻の栽培、古着の回収などの体験活動を通し、地域や世界の問題と具体的に関わって学習してきた。

学習を通して、世界には様々な課題や目標(SDGs)があるということ、一人一人ができることを考えて取り組むことが大切であるということを理解している。だが、子供たちがこれまで具体的に関わった課題以外についての理解は表面的であり乏しいと言える。

本単元では、小学生である自分たちには何ができるかを模索し、幅広く体験活動を行っていく。体験活動を通して物事についてより深く理解したり、小学生である自分たちにもできることがあるということに気付いたりして、今後も自分たちにできることを探し、主体的に活動していこうという態度を養っていく。

単元の一次では、今年1年間の学習のテーマについて話し合う。その際、昨年度までの学習内容を想起させることにより、昨年度までのものより質の高いテーマを決めることができるようにする。子供同士で意見が割れた場合は、互いの願いがどうやったら叶えられるか、全員が納得できるかについてじっくりと話し合うようにする。テーマを決めた後には、半年間の単元計画を立てる。子供の願いに寄り添い、子供たちが知りたいこと、挑戦してみたいことをできる限り叶えられるような計画にすることで、より主体的に活動できるようにする。

二次では、自分たちが関心をもったSDGsについて調べる。自分が学んだことを学級の友達に発表したり、友達の発表を聞いたりすることを通し、SDGsについて基本的な知識を得ることで、自分たちに何ができるか考えるきっかけとする。

三次では、二次で学んだことをもとに、「SDGプロジェクト」として、自分たちができることを具体的に考えてグループごとに実践していく。このとき、無理に活動の一つに絞ることなく、子供の関心に合わせ、様々な活動を体験できるようにする。グループによっては計画が変わってしまったり、他グループと比較してうまくいかなかったりするグループも出てくるのが考えられる。このとき、他のグループの活動を参考

にすることによって次時以降の活動に生かすことができるようにする。

四次では、三次で活動した内容をもとに、活動の範囲を他校や校外に広げてさらに多くの人を対象に活動を行う。このとき、三次の活動で得た経験、反省を生かしながら活動していくようにする。また、他校や校外の人と関わることで、より多くの人々の目線や考え方に触れられるようにする。様々な立場や先人の異なる視点からの意見を取り入れることで、自分たちでは気付くことができなかった様々な考えに触れ、誰もが幸福を享受できる社会づくりの一端を担い、今後の自分たちの生活の中で実践していくことができるようにする。

五次では、この学習の発展的活動として、シンガポールとの「国際協働学習」に取り組む。これは、インターネット環境を活用し、同年代の外国の子供たちと交流し、互いの文化や思いについて伝え合い、様々な視点から物事を捉え、自らの視野を広げる一助となるようにする。その交流の中でSDGsについて自分たちのプロジェクトの取組を発信し、「国際平和」や「地球環境」など、世界共通のテーマを基に対話的・協働的な学びを行えるようにする。

(3) 単元におけるESDの視点

本単元は、小学生の純朴な目から世の中の出来事を見て捉え、よりよい未来のために自分たちができることを考え、より主体的に学習に取り組むことにより、皆の力を集めると大きな力となって未来を創ることを理解し、持続可能な発展や自分たちの取組の大切さについて考えとともに、未来のためにできることを探し、自ら実践していこうという態度と実践力を育むことができるようにしていく。

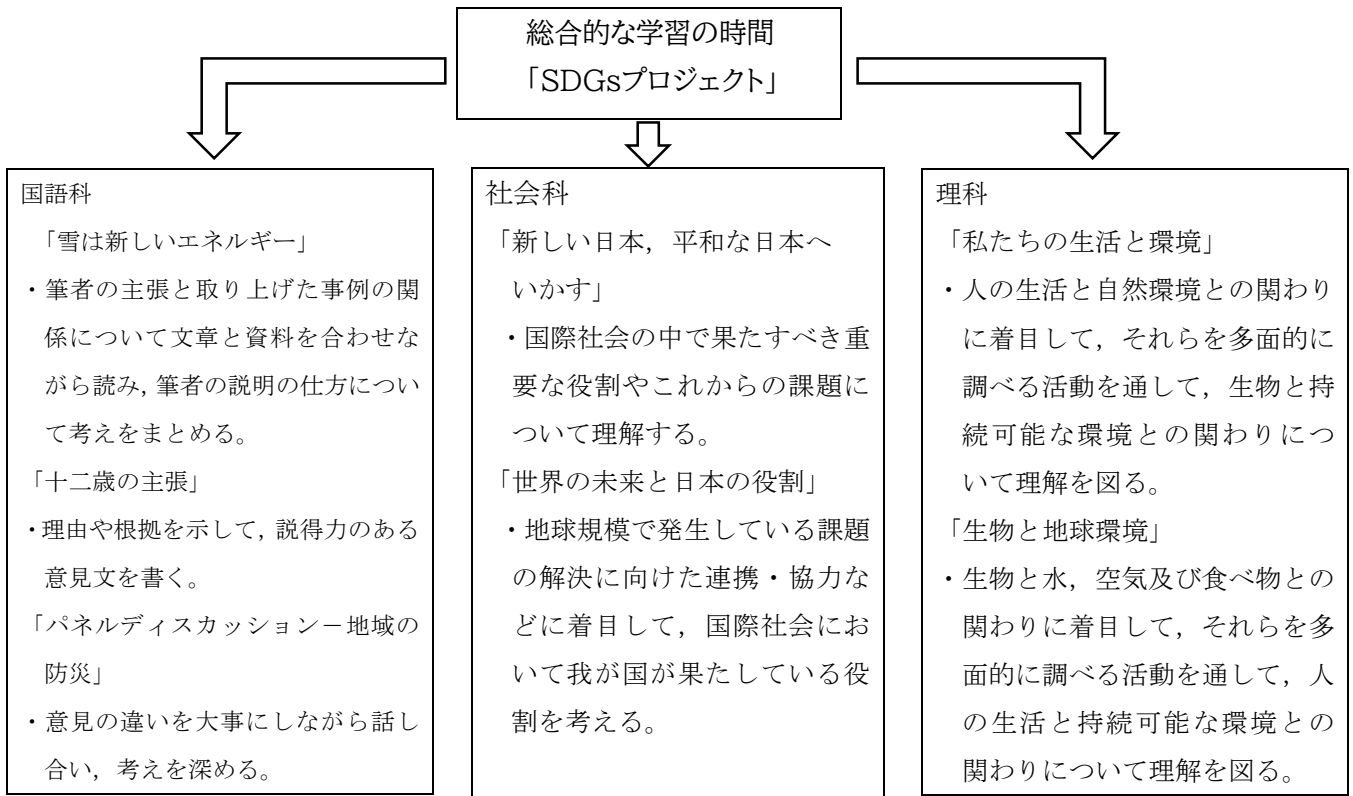
- 構成概念：II 相互性「互いに関わり合って」
 - V 連携性「力を合わせて」
 - VI 責任性(責任を持って)
- 能力・態度：2. 未来像を予測して計画を立てる力
 - 4. コミュニケーションを行う力
 - 5. 他者と協力する力

(4) めざす姿に迫るための手立て

- 活動のテーマや計画を子供主体で考えることで、活動への見通しをもてるようにする。
- 身の回りの課題に対し、実際に活動をしたり、体験をしたりして具体的に知ることで、課題をより身近な問題として捉えられるようにする。
- 現在の自分たちにはどんな力があるか考え、自分の可能性や将来の自分について見つめ直すことで、自分の将来について希望をもち、自分の成長に気付くことができるようにする。
- 活動途中で学習の成果を振り返り、活動の方向性を修正、改善することで、子供の願いに寄り添った活動を最後まで続けられるようにする。
- 自分たちの取組を他の目線から評価されることで、自分たちの取組が周囲に影響を与えていること、世界規模の課題であっても皆で力を合わせれば立ち向かえることに気付き、総合的な学習の時間以外でも学びを生かし実践していこうという態度を養っていく。
- 国際協働学習を通し、「SDGs」というテーマについて外国の小学生と交流を深めることで、様々な視点

から見ても世界の問題が深刻であり、自分事でもあることを再確認し、世界の人々に発信しようとする気持ちを高められるようにする。

3 他教科等との関連について



家庭科 「共に生きる地域での生活」・地域の人々との関わりについて課題の解決に向けて主体的に取り組む。
「持続可能な社会を生きる」・自分の生活が環境に与えている影響について理解し環境に配慮した生活を考える。

道徳科 「自然のゆりかご」・自然の命のつながりが分かり生命の営みを大切に生きていこうとする。
「広村堤防の清掃ボランティア」・公共の役に立つ意義や喜びを感じ社会の一員としてできることを進んで行う。

4 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合っ決めてたテーマをもとに、学習の計画を立てている。(技能) ・SDGsの課題点や自分たちができることについて理解している。(知識) ・本や資料、インターネットなどを使って、SDGsについて調べ、ICTを活用してまとめている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心をもったテーマを出し合い、話し合っている。(課題の設定) ・社会の課題や自分たちができることについて情報を収集している。(情報の収集) ・持続可能な社会を作るという目標に向け、自分たちができる取組の重要性について整理し、考えている。(整理・分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような計画にすればテーマに沿った学習になるかを考えながら話し合おうとしている。(主体性・協働性) ・社会の課題を目の当たりにして、これまでの自分の生活を振り返ろうとしている。(自己理解・他者理解) ・SDGsについて調べ、社会の課題について知る中で、課

<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの行動によって未来が変わることに気付いている。(探究的な学習のよさの理解) ・自分たちが行う小さな取組がつながると大きな力となり、未来を創ることに気付いている。(探究的な学習のよさの理解) ・今後社会の在り方はどんどん変動していくことを理解している。(知識) 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいテーマについて、相手に合わせた伝え方を考えながら分かりやすく伝えている。(まとめ・表現) ・自分たちの活動を校外に発信するとき、どのような点に気を付けるべきか、様々な立場から考え、表現している。(整理・分析) ・多様な考え方を尊重し、それぞれの考え方のよさを生かそうと考えている。(整理・分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ・題に対し自分たちができることを考えようとしている。(将来展望・社会参画) ・社会や学校のためにできることを探し、自ら実践しようとしている。(主体性・協働性) ・他校や地域のためにできることを探し、自ら実践しようとしている。(主体性・協働性) ・自分や友達のよさ、成長を理解しようとしている。(自己理解・他者理解)
--	--	--

5 単元の全体計画(全40時間)

学習過程 (時数)	指導上のポイント	資料・教材教具等 学習環境
第1次 学習のテーマ を知り、計画を 立てよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度取り組むテーマ「SDG s」との出会いを工夫し取組への動機づけを高められるようにする。 ・「SDG s」についてイメージや知っていること等を自由に出し合ったり、話し合ったりすることができるようにする。 ・単元計画を立てる際は、子供の願いに寄り添った計画になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞 ・チラシ ・教室
第2次 SDG sを 知ろう (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・SDG sとはどのようなものか、自分たちの生活とどのように関わっているかについて調べるようにする。 ・ポスターやパンフレット、プレゼンテーションソフトなど多様な方法でまとめ、発表することができるようにする。 ・友達の調べた内容について、自分の生活とのつながりを考えながら発表を聞くことで、自分の身の回りには多くの課題があることに気づき、次時につなげることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・SDG sの関連書籍 ・新聞 ・チラシ ・SDG s スタートブック ・画用紙 ・カラーペン ・プレゼンテーションソフト
第3次 何ができるか 考え行動 しよう (20)	<ul style="list-style-type: none"> ・2次で学んだことをもとに、自分たちにできることを具体的に考えるようにする。 ・グループごとに関心をもった活動に取り組むようにする。 ・それぞれの活動について目的を明確にするようにする。 ・グループ内で解決できない問題について、他グループの協力を求めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの取組に必要な材料 ・教室外の特別教室 ・校外 ・カラーペン ・画用紙 ・プレゼンテーションソフト

	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況報告会を開き、グループごとの現状や本来の目的から変わっていないか、困っていることなどについて学級全体で相談できるようにする。 ・それぞれのグループの活動について取組の記録をプレゼンテーション資料としてまとめ最終報告として発表し合う。 	<p>ンソフト</p>
<p>第4次 学びを広げ 発信しよう (7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他校や校外の人と関わる前に、3次までの活動と比較しながら活動内容を検討する。 ・他校や校外の人と関わることで、これまでより多くの人の目線や考え方に触れられるようにし、より多くの人が幸せになる方法を考え、今後の自分たちの生活の中で実践していくことができるようにする。 ・活動後、関わった相手に対してアンケートをとる、話を聞くなどし、取組を他の目線から評価してもらい、3次との違いを明確にし、活動を振り返る助けになるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・プレゼンテーションソフト ・大型スクリーン ・プロジェクター ・カラーペン ・画用紙 ・体育館
<p>第5次 世界に向けて 発信しよう (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット環境を活用し、シンガポールとの「国際協働学習」に取り組む。 ・同年代の外国の子供たちと交流し、互いの文化や思いについて伝え合い、様々な視点から物事を捉え、自らの視野を広げられるようにする。 ・交流の中でSDGsについて自分たちのプロジェクトの取組を発信し、「国際平和」や「地球環境」など、世界共通のテーマを基に対話的・協働的な学びを行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板 ・プロジェクター ・WEBカメラ ・通信ソフト ・タブレット端末